

議会における「質問力向上研修」講座

H28.8.3 山本真吾

今回の研修は私にとって初めてのものであった。会派長の勧めで、9月の一般質問に向けて受講することとなった。一般質問は、議会の一員として、監査機能や政策提案機能を果たす事ができ、議会議員としてその活動の集約となる場である。

実際の議会の現状はどうか。その機能は十分に果たされているか。市民から「あの議員は市民の声を代弁している。良い質問だ。」と思ってもらえるように、民意を反映するような質問が出来るようになりたいという気持ちをもって今回の研修に臨んだ。一般質問は自己満足な質問にならないようにしなければならない。

【八百長と学芸会の話】

一般質問を舞台に質問と答弁が事前にシナリオ化しているという議員と行政のなれ合いを象徴した表現だが、それ以上に市政にとって損失なのは、一般質問が監査機能も政策提案機能も十分に果たせていない状況であり、まさに「残念」で「もったいない」状況である。

これに対して、議員がレベルの低い質問で当局に無駄な時間を使わせるよりも、議員の質問は答弁も含めて行政職員に作ってもらった方が、よっぽど質の高い議論を展開できるからその方がマシだ、という穿った見方もあるという。

【議会事務局職員からみた議員の一般質問の感想】

- ① 単に質問ただけで終わっているのではないか
執行部は事業進捗状況を尋ねるだけに終始している。質問は首長の最初の答弁を聞いてからが本番である。続いて再質問、再々質問と確信に迫っていくような場合は少ない。何を求めて質問しているのか不明確な場合が多い。
- ② 質問する議員が、首長といわゆる与党関係にある場合
首長の功績を過大評価した内容を質問に盛り込んでいる場合がある。
議員は首長の支持者ではない。
- ③ 議員個人として、いくら良い提案をしても首長は「聞き置く」だけの場合がある。もし、「検討します」との答弁があれば、「いつまでに答えを出すのか」「その検討結果を、いつどこで示すのか」等を質問中に市民の前で答弁させ

て確認しておくこと。

- ④ 徹底的な事前調査をして、入念な戦略をもった質問としているか
事前調査では、執行部に確認するだけで満足していないか。執行部の職員は決して全ての情報、執行部にとって都合の悪い情報は議員には渡さない、ということに留意すべきである。
- ⑤ そもそも「二元代表制」における議会の機能において、一般質問が果たすべき役割と何かか。
シナリオ通り執行部との事前の打ち合わせ通りで終わっていいのか。

午前中の研修は全国の議会における一般質問の中から失敗事例をテーマにディスカッションし、どこが問題なのか、どうすればより良い質問になるのかを皆と話し合いながら意見交換した。

【失敗事例】としては、

- ① 公表数字を確認するだけの質問
- ② 論点を入れすぎてぼけてしまった質問
- ③ 個別要求的すぎる質問
- ④ 合理的な根拠や論拠のない批判に基づく質問
- ⑤ その自治体が関知できない国や他の自治体の事柄についての質問
- ⑥ 自身の政治信条の演説に終始している質問
- ⑦ 一問一答のやりとりを続けるうちに混乱してしまった質問
- ⑧ 執行部への謝辞は時間の浪費でもある

それから、【良い一般質問】とは何かを皆で話し合った。

- ① 主張に一貫性がある事
- ② 具体的な目標が示されていること
- ③ 目標との関係で執行部に数字やデータを尋ねること
- ④ 徹底的な事前調査をして、入念な戦略をもった質問
- ⑤ 「検討します」の答弁があれば、いつまでに検討するのか、その検討の結果をいつどこで示すのか」を質問中に答弁させる質問

質問をする際の話し方講座では、見た目、表情、ジェスチャー、テンポだけでなく、お辞儀の練習もした。隣の人と自己紹介と地元のエピソードをお互いに話し、話し方の確認をし合った。

人前で話す時は早口にならないように気を付ける必要があると感じた。

【良い話し方】

- ・聞き手をリラックスさせる
- ・分かりやすい
- ・熱意がある
- ・聞き手に語りかける
- ・ユーモアがある
- ・スムーズに話す
- ・ボディランゲージを使う

【悪い話し方】

- ・弁解する
- ・声が小さい
- ・早口で喋る
- ・聞き手を見下す
- ・話が平坦で変化がない
- ・話の切れ目に「あー」などを入れる
- ・何を言いたいのかわからない

最後は本日の参加者全員の前で「周南市の今後について」の発表をした。その際に、「9月に初めて壇上に上がり、一般質問を行うので頑張ります！」と決意表明もした。

元来、人前での発表は得意ではないので今回の研修は大変有意義であった。

研修 in 福岡県 市
会派アクティブ行政視察

質問・答弁及び所感

岩田淳司 議員

研修
視察事項 : 立地適正化計画と公共施設等総合管理計画

問

答

問

答

問

答

所感

公共施設再配置問題と立地適正化問題を議員としてチェックすべき項目、視点を指南して頂き大変勉強になった。以前から感じていた国→県→市への主導的流れに流されることなく、各市の実情を適格にとりえ、その市に合った適正化計画を作成することが大切で、「理念なき都市計画は不要」との言葉には感銘さえも受けた。 我が市の場合
また、居住誘導区域や都市機能誘導区域の設定には十分な市民との意識共有や、そのための時間取下げが必要と感じた。この9月から始まる我が市の立地適正化計画に係る地域の住民説明会にもむしかり参加し、我が市の進むべき方向性の提言をしていきたい。川本連志氏の講演は初めてだったが、価値のあるものだった。また彼の構蔵に出たい。

会派アクティブ行政視察〈 県 市〉

質問・答弁及び所感

若田 淳司 議員

視察事項 : 決算審査会中講座の広島(決算審査へのアプローチ応用編)

問

答

問

答

問

答

所感

地方交付税や臨時財政対策債といった日頃から疑問を抱いていた事項についてかなり深掘りされた内容の講義を受けることができた。いへん勉強になった。日頃の執行部のやりとりの中では執行側とチェック側の立場の違いもあり、執行部側には不利益な情報は入手しにくく、又総務省などのHPで深さは深い情報も入手できると教えてくれた。今後には役立てようであった。臨時財政対策債については、日頃から議会でも疑問を抱き提言(瓦通)、未だ一度も実際の交付税として措置されておらず、将来国はその額を交付する為、財源が増えるとは考えにくく、やはりこの起債は少なくて抑制していかねばならないと言っていたことは間違いはなさそうだと確信した。今後更に勉強を深掘りし、市の為に進言できる議員となるべく努力を続ける。

視 察 報 告

日 時：平成28年10月6日(木)

内 容：決算審査のアプローチ(応用編)

場 所：広島市 ワークピア広島

報告者：土 屋 晴 巳

決算審査を控え、決算審査のスキルアップのために参加した。また講師が廿日市市の元副市長を務められた方のため、決算における行政の弱みも聞けるのではないかという期待もあった。

行政の立場から、議会の立場両方の立場に立った決算審査のポイントが拝聴でき、とても勉強になった。

決算に対する質問ポイントとして、

- ・費用対効果から事業の成果UPに繋がる改善策
- ・不用額の取り扱いと考え方
- ・債権放棄の考え方と徴収努力
- ・指定管理の適正執行

指定管理料の執行だけではなく、最大の効果がでているのか。利

用者は最大限にサービスされているのか → 効果の把握

- ・決裁書により一層の効果の記載を求める

今後、人口減少は避けては通れない。人口減少は市民税・固定資産税の減少に通ずる。それだけに、財政の健全性、施策の効果と改善、財政・財産管理・会計処理の適正性の視点に立った決算審査が求められる。

そのためにも議員一人ひとりのレベルUP・質問力のUPに努めなくてはならないと、改めて感じた。